製本のススメ　Vol. 1

懐かしいな～　一部で好評(?)だった「製本のススメ」ですが、気持ちもあらたに
再登場です、またインターネットからも近日掲載デビューいたします。
さて　最近は簡単な印刷物でさえ　ルール違反の刷り本が多くなりました。みんな
プロなんだから 最低限の**印刷と製本の基本ルール**を知っておきましょう。
短納期で良い仕上がりにするには、いくつかの約束事があるんだよね。
少しづつお話をしていきましょう。

今回は　右開きと左開き

　文章の書き方が横書きならば、左開き・縦書きならば右開きは世界の常識ですね。
そしてどんな場合も　**左アキの本は天が袋・右アキの本はケシタが袋**　これは
刷り本を折った時の状態をさして言っています。何故？なんて考えてはいけな
い！念仏の様に「左アキは天袋・右アキはケシタ袋」と唱えながら版を作ろう。
（本当はちゃんとした理由がありますが、書くと長くなるので今回は省略）
さらに**天袋/ケシタ袋の落とし分は４ミリ（８ﾐﾘ）が標準**です

こっちは左
開きの本

こっちは右
開きの本

印刷が終わったら１枚折丁を作りましょう（一部抜き）　これは版付けのミスを事前に
発見できると共に刷り忘れの確認　また　一部抜きを集めれば製本の丁合い見本に
なります。裏と表を逆さまに印刷しちゃった～！なんてことも、製本屋さんに見つけて
もらうのは、恥ずかしいでしょ？見開きのページなのに　折ってみたら絵が合わない
なんて事も、事前に発見できれば痛手は少ない・・・ハズ。 このひと手間が　エンド
ユーザーへのスムースな納品につながるのです。

Ｔｅａ Ｔｉｍｅ

時代は進歩して、当時　モノクロからスタートだった「製本のススメ」も今や
カラーは当たり前。そしてＩＴの世界に突入です。でも、書き手はやっぱり
アナログ派なので、原稿書きも未だに鉛筆なのでありました。　卜林

by（株）井関製本